

事業所名	グループホーム神庭荘
日付	2008/11/18
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
	評価調査員 介護支援専門員 認知症ケア専門士 介護支援専門員 介護福祉士
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります!) ※	

1. 評価結果の概要

講評	<p>全体を通して（特に良いと思われる点など）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の四季を感じることができる山間の静かな景観のよい環境にあります。 隣接した同敷地内に同一法人の特別養護老人ホーム・居宅介護支援事業所・在宅介護支援センター・通所介護等併用施設があり、連携が密にでき緊急時の夜間対応や福祉のノウハウも充実していて柔軟な対応ができています。 自分が将来入所したいグループホームを目指し経営母体との共同の理念でその人らしい人生最後の時を幸せな気持ちで過ごしていただけるように「神庭荘にきて良かった。生きていて良かった。」と思っただけのように、全職員が理念を理解し暖かい家庭づくりを目指し、地域に貢献できるよう前向き努力がされています。 基本理念として <ul style="list-style-type: none"> 「①恵神会は地域社会に貢献②開かれて愛され、信頼される施設を目指し③側障の情を介護の基本とし、④一人ひとりに合った心のこもった介護で⑤安心安全な生活を⑥プライバシーを守り⑦自覚をもち笑顔で」が常時分かるように、名札とともにいつも携帯し、いつもグループホーム神庭荘のご利用者の立場に立って物を考え介護されておられます。 職員間のチームワークが良く取れており、ご利用者の方にグループホームでの生活ができてよかったと、思ってもらえることができるように、いつも「や・い・ゆ・え・よ」（やさしく・いたわり・ゆとりをもって・えがおで・よろこんで）をモットーに、その人らしい人生を送ることのできるように、日々自己研鑽しながら前向きに業務に取り組み、入居者のプライバシーを大切にされた自立支援と、安全で安心できる環境と雰囲気作りと自由を尊重した暮らしに努めターミナルケアに積極的に対応されています。
特に改善の余地があると思われる点	
特になし	

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 送入の代表者が常に職員の顔色や体調に察を配り、年2回個人評価で職員の頑張る姿を受けとめるとともに、面接により、働きやすい環境作りを目指しておられ、他の機関からも相談に来られている。 職員の笑顔は利用者の笑顔につながるため、職員には声かけを行うなど職員に対する配慮を行うことにより、利用者がより快適に過ごせる環境づくりに努力されています。 自分の家族および将来職員が利用したいと思えるようなホームを目指しています。 笑顔で毎日過ごしていただけるように、職員が心がけた介護や支援がなされています。 出迎いを大切に、笑顔あふれるホームづくりを目指し、人との繋がりを大切にしながら家庭的な雰囲気で、その人らしく暮らせるグループホームを目指しています。 認知症を理解し「やさしく・いたわって・ゆとりをもって・えがおで・よろこんで」の理念の実現に向けたケアを実践されています。 車椅子に座る苦痛や麻痺の方のベット体験・オシメに排泄をする違和感等を体験することにより、より良い介護が出来るように研修会も定期的に行われています。 特別養護老人ホームと協力して介護度が上がっても住み慣れた環境で生活できるように、特別入浴を利用等で家族の方にも安心していただけるようになっています。 緊急時は法人全体で協力し、夜間でも協力病院の受け入れが出来る。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生活歴を細かく把握し、その人を理解してできるだけ安心して生活が送れるように、また出来ること、出来ないことを把握しその人らしい生活ができるような対応がなされています。 集団生活の中で個性を大切にしながら残存能力を活かした対応と、家族の様な雰囲気づくりに取り組んでいる。 笑顔で受け入れ笑顔を貰う介護を心掛けている。 毎日の買い物や散歩を行い、外気に触れる事で閉塞感の防止に努め、気分転換と心の安定を図っている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> その人らしさを大切にされた日常生活（入浴・排泄・食事など残存機能に合わせた）自立支援と趣味が楽しめる場づくりや、生活習慣（食事の支度・洗濯・掃除など）を支援している。 理事長と一緒に食事を食べて日頃の生活や状況を理解するよう努めている。 個人情報に関しても利用者や家族の同意を得て共同生活の中でのプライバシーの保護にも努めている。 入室時においてもノックや声かけが行われています。 生活歴を把握し、できることをさりげなくしていただくなど経験の尊重に努めている光景が窺えました。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に利用者と同じ体験をしてもらい苦痛や状況の体験でより質の高いサービスが提供できるように定期的に内部研修を行っている。 県内外の研修会の参加及び勉強会や日々現場での介護技術の伝達・自己研鑽による職員間の質の向上に努めている。 ヒヤリハットでは、その日に今後の改善に向けての会議が行われ、参加できない職員には後日伝達を行っているなど問題が発生しないように努力がなされている。 		